

2. 事業の目的と概要	
(1) 事業概要	当事業はサバナケート県中心部より約 200km 離れた山岳部のセポン市にあるサバナケート県立職業訓練校の分校にて、初等教育卒業程度の生徒に対して、日本から洋裁専門家やミシン修理の専門家を派遣し、洋裁技術教育支援、またミシンの組立・メンテナンス技術訓練を行う。完成した作品は現地での販売のほか、日本へ持ち帰りフェアトレード事業を通してフォローアップを行い、技術の定着を図る。洋裁技術の向上により生徒たちの自信に繋がり、また生徒の作品の売上金で学校設備や運営などの改善も期待できる。また、身に着けた洋裁技術を内職として活かすことができるため、個人レベルでも収入向上も目指す。 さらに、出張ワークショップによる周辺住民への洋裁技術指導により、職業訓練校に通学できない人々への技術支援を行う。 We provide technical support of dressmaking and maintenance of sewing machines dispatching Japanese experts at Savannakhet Technical Vocational College Xepon Branch. The products will sell in Laos and Japan as fair-trade in order to fix the dressmaking technic. We also provide the opportunity of skill learning for the people around Xepon city through the workshop.
(2) 事業の必要性(背景)	ラオスは、2010 年に 1 人当たりの GDP が 1000 ドルを超えたばかりで、東南アジアではミャンマー、カンボジアと並んで国連に後発開発途上国に指定されている。持続可能な開発目標の達成及び 2020 年までの後発開発途上国からの脱却などを国家目標に掲げており、解決すべき課題が残されている。近年 GDP の成長は 7~8%と上昇はしているが、まだまだ女性の雇用は少ない。 本事業地であるセポン市のノンブライ町は山岳地帯に位置し、電気が通っておらず満足な食事をしていない家庭も多く存在する。教育も行き届いていない状況である。 当団体は平成 19 年度日本 NGO 連携無償資金協力を得て 2007 年にサバナケート県の県立職業技術訓練校に洋裁科を設立、2007 年から 2010 年には日本から洋裁専門家とプロジェクトマネージャーを派遣し、ミシン等の必要な道具を現地に支援し、主として 10 代後半の女子 20 名に向け洋裁技術指導事業を行った。2010 年以降は自己資金でフォローアップ事業を継続し、定期的に現地に赴き復習を行い、できた作品に対しては生徒に仕立て代を支払い、作品はフェアトレードとして日本で販売し、2018 年の現在まで事業を継続している。この事業は事業地での成功例となり、2007 年に 20 名でスタートした洋裁科は 2018 年 11 月視察時には 99 名まで増え、当時の訓練生の中で 3 名が教員として教えるまでになっており、大きな成果が見られた。 (e. g.) 2008 年サバナケート県立訓練校本校卒業のパライサンクン村に住むラッサミーさんは、卒業後ミシンを買い母親と店を出し服の仕立てをして 1 着 20 万 KIP (約 2,700 円) の収入があり、以前の 2 倍の収入 (約 40,000 円/月) がある。ラオスでは自国や外国資本の縫製工場はあまり増えていないが、卒業生の腕の良いたことが評判になり仕立の注文は多くあり、個人的に開業する卒業生が多くなってい

	る。(2018 年 11 月 6 日調べ) このアンケート調査より、専門技術を身につけることは仕事を獲得して収入を得ることに直結していることが分かる。 2017 年にはベトナム戦争で被害を受け開発が遅れ、マイノリティ山岳民族が住むセポン市（本校から南に約 200km）にセポン分校を設立してさらに技術訓練の場を広げている。2018 年 9 月の視察時には、旧森林研究所の施設の跡地にアジア開発銀行の寄贈でセポン分校の校舎は建設中であったが、48 人の生徒（1 年 19 人、2 年 11 人、3 年 18 人）に対して 3 名の教員が本校より出張して教えている状況であり、教員の数、ミシン等必要な設備に課題を抱えている。本プロジェクトにてセポン地域の若者に対する洋裁技術指導を行い、現在の平均収入である約 10,000 円／月から、事業を実施することで平均約 15,000 円／月に増えることを目指す。 ●「持続可能な開発目標 (SDGs)」との関連性 SDGs の目標 4.3、4.4、4.5 に該当する。 職業訓練校での質の高い洋裁技術指導をすることにより、雇用に必要な技術を身につけた若者の育成を支援する。また、出張ワークショップによりマイノリティ山岳民族等、多くの人が技術教育にアクセスすることを可能にする。服飾及び手工芸品の向上によりセポン市の観光産業の発展に貢献でき住民の収入増加に繋がる。 ●外務省の国別開発協力方針との関連性 「対ラオス人民共和国 国別援助方針」3-(3) 教育環境の整備と人材育成に該当する。 生徒への技術指導は同時に教員への教育にもなり、教員の質の向上が実現できる。また洋裁技術の向上により生徒の作品の売上金が増え、学校設備や運営などの改善につながる。
(3) 上位目標	サバナケート県において洋裁技術を身に付けた女性・若者が育ち経済的・精神的に自立する。
(4) プロジェクト目標 (今期事業達成目標)	サバナケート県セポン市の女性・若者の洋裁技術が向上する。 ①日本人専門家によるサバナケート県立職業訓練校セポン分校での洋裁技術指導により、裁技術の向上が可能となる。 ②出張ワークショップにより、職業訓練校に通学できない人への洋裁技術の支援が可能となる。
(5) 活動内容	<u>1. セポン分校における洋裁技術指導、販路開拓支援</u> 1-1: リボン・京都に現存する洋裁教科書を英語/ラオス語に翻訳し、ラオスの民族服のパターンも追加したものを指導の教材として訓練生全員に提供する。2007 年からのラオス・サバナケート職業訓練校でのプロジェクトでは教科書は作成しておらず、2013 年からのルワンダ・ガチュリロ職業訓練校のプロジェクトでは英語/キニアルワンダ語の教科書を作成したことにより英語が読めない訓練生にも理解が易しかったことから、今回はラオス語に翻訳した教科書を作成する。 1-2: ロックミシン 3 台、工業用ミシン 5 台、足踏みミシン 3 台、その他アイロン等必要な道具と布地を支援する。

1-3：日本よりプロジェクトマネージャー、洋裁専門家を派遣し一年間の授業を通して洋裁技術指導を行う（指導内容は職業訓練校校長の要望により、60%をラオス国内向けのデザイン（ラオスの布で指導）、40%をインターナショナルのデザイン（日本で収集した絹着物地で指導）を行う。受講者 50 名に対して週 3 回（1 回あたり 1 時間の授業）×4 週間×10 か月（7 月、8 月の夏休み期間を除く）の 120 回の授業※を行う。

授業開始に伴い、本部事業統括兼洋裁専門家の小玉氏が現地に赴き必要な物品の購入の補助、授業の補助を行う。また、洋裁指導責任者の中島氏が授業開始に当たって教材や道具等、授業に必要な準備の補助を行い、ミシン組立専門家の中井氏は購入したミシンの組み立ての補助を行う。

2020 年 10 月には小玉氏、中島氏が再度現地に赴き、訓練生の技術レベルの評価、不足している技術に対して必要な訓練について、セボン分校の責任者また洋裁科教員と今後の方針を話し合う。また、ミシン組立専門家の中井氏はミシンのメンテナンスの技術指導を行うため同時期に現地に派遣する。

※授業スケジュール案は別紙にて添付。

1-4：完成した作品を受講者が着用し、完成披露会という名目でセボン分校にてファッションショーを行う。周辺住民やサバナケート県立職業訓練校本校の生徒も自由に観覧できるようにし、セボン分校の訓練生が自らの作成した衣服を着用し、ファッションショーを行うことで、衣服に対しての愛着が湧き、更なる洋裁へのモチベーションアップが期待される。

1-5：訓練生が製作した国内向けデザインの作品を地元で流通できるように、現地事務所責任者、学校コーディネーター、プロジェクトマネージャーがセボン分校の敷地内または周辺のお店で販売してもらえるように販売先の開拓を行う。売上金の 3 割を学校設備や運営資金に充当し、学校運営を安定させる。

2. 製品開発支援

2-1：2020 年 3 月～4 月に訓練予定のシャツブラウス、9 月に予定のベストの授業では、これまで習得した洋裁技術を応用して定型のパターンからサイズやデザイン等、各自で工夫したパターンを作らせる。

2-2：2-1 で各自が開発したパターンを日本人専門家による授業を通して実際に製作させ、卒業後に顧客からのニーズに応えることができるような能力を身に付ける。

3. 出張ワークショップによる洋裁技術向上

3-1：セボン市出身の洋裁科教員 Hongkaly Thippakesone の協力の下、セボン分校から東に約 50km にあるセボン寺婦人会（ワセボン婦人会）と協力してワークショップを開催する場所を確保する。本ワークショップ開催に必要な足踏みミシン 2 台、工業用ミシン 2 台、ロックミシン 1 台、その他アイロン等必要な道具と布地を支援する。

3-2：セボン市内を出張して 1 か月に 1 回ほどの間隔でワークショップを計 12 回程度行う。日本から派遣する洋裁専門家 1 名、セボン分

	校の洋裁科の教員 (Hongkaly Thippakesone)、プロジェクトマネージャー1 名が出張し、縫製技術の習得、ラオスの民族衣装の作り方を指導する。7 月～8 月の訓練校の夏休みの間は、セボン分校の教員 2 名でワークショップを行い、ミシン委託管理の予行としてミシンの委託をする。 3-3：一回きりのワークショップで終わるのではなく、継続して効果が見込めるよう、12 回のワークショップ終了後、セボン寺婦人会（ワセボン婦人会）にミシン管理を委託する。 ミシンの使用（1 日につき約 100 円）を 1 使用者から使用料として取りながら機材のレンタルを行い、使用料はミシンの修繕費に充てる。 <u>4. サバナケート職業訓練校本校でのフォローアップ指導</u> 4-1：2019 年 11 月のセボン分校での事業開始前に、ミシン等の材料購入を進めながら本部事業統括兼洋裁専門家の小玉氏、洋裁指導責任者の中島氏、ミシン組立専門家の中井氏がサバナケート職業訓練校本校にて、約 10 日間の授業を通してフォローアップ指導を行う。 4-2：2020 年 10 月のセボン分校訪問前に、本部事業統括兼洋裁専門家の小玉氏、洋裁指導責任者の中島氏、ミシン組立専門家の中井氏が本校にて、約 10 日間の授業を通してフォローアップ指導を行う。 ※授業スケジュール案は別紙にて添付。
	直接裨益人数 約 300 人 セボン市の職業訓練校の生徒数延べ 50 人、また出張ワークショップで 1 回に指導できる人数を 20 人と考え、ワークショップを年 12 回行うとすると直接裨益人数はおおよそ 300 人と仮定できる。 間接裨益人数 約 1500 人 直接裨益者から指導を受けた家族、友人を 1 人につき 4～5 人と考え 1500 人とする。
(6) 期待される成果と成果を測る指標	期待される成果 成果①高度な洋裁技術を習得した人材が育成される(高度な洋裁技術とは、日本式の製図を使用し、柄合わせがうまく出来工業用電動ミシンで正確に縫製ができる技術を指す。) 指標①-1：訓練生の 80%が訓練を修了 訓練を最後まで完了したものを修了として、家庭の事情等で訓練を継続出来なくなる生徒を考慮し 80%と設定する。 指標①-2: 洋裁技能レベル 5 段階の 3 以上を修了生 80%以上が達成 (洋裁技能レベル基準；下記参照) 確認方法①アイテム実習終了後に日本人洋裁専門家および洋裁指導

	責任者が「Evaluation Sheet」を用いて実施する作品評価の平均、および最終アイテムの作品評価を基に洋裁技能レベルを算出。縫製者として持つべきレベル3以上を基準とした。訓練生はそれぞれの資質、能力が異なり、レベル3を達成するには更に時間を要する可能性の訓練生もいる為、80%以上の達成とする。 成果②訓練生自らが現地のニーズを汲み取り、習得した洋裁技術を応用して製品を開発し、市場で取引できるレベルの作品を制作できる 指標②-1：生徒1人につき1アイテムの製品を開発する。 指標②-2：開発製品の評価が5段階評価レベルの4以上（評価レベル基準；下記参照） 確認方法②アイテム実習終了後に日本人洋裁専門家および洋裁指導責任者が「Evaluation Sheet」を用いて実施する作品評価の平均、および最終アイテムの作品評価を基に洋裁技能レベルを算出。縫製者として持つべきレベル3以上を基準とした。訓練生はそれぞれの資質、能力が異なり、レベル3を達成するには更に時間を要する可能性の訓練生もいる為、80%以上の達成とする。 成果③出張ワークショップにより学校にアクセスできない人々への洋裁技術の場が提供できる 指標③-1：一回のワークショップにつき20名程度の参加者がある 指標③-2：自治体管理のミシンが住民に活用される 確認方法③-1：出席者名簿による参加者人数の確認 確認方法③-2：自治体管理者による利用頻度、利用人数等、利用状況の確認 【洋裁技術レベル基準】 レベル5：製図に寸分たがわず縫い上げることができる。柄合わせがきちんと出来ており、仕上がりがほぼ完璧である。 レベル4：指示通りには縫製ができるが、細部に渡る配慮が足りないため仕上がりが完璧ではない。 レベル3：ある程度指示通りに縫い上げることができる。 レベル2：指示通りに縫製ができず、ミスの多い状態で仕上がりてくる。 レベル1：縫い上げるまでに生地傷に傷を付けてしまう等、ほぼ修復不可能な状態で縫い上がる。 【評価レベル基準】 レベル5：品質、デザイン上、海外（先進国）市場で流通できる。 レベル4：品質、デザイン上、ラオスの中流階級以上をターゲットに、現地市場で流通できる。 レベル3：デザイン面あるいは品質両面で、再考慮の必要があるもの。 レベル2：デザイン面および品質両面で、再考慮の必要があるもの。
--	---

	レベル 1 : ラオス市場にて現在流通している商品 (e. g.) 2013 年～2015 年のルワンダでの洋裁技術指導事業では、フェーズ 1 での訓練生の 100%が洋裁技能レベル 4 以上に達し、フェーズ 2 での訓練生の 80%以上が洋裁技能レベル 3 以上に達した、フェーズ 3 での訓練生の 100%が洋裁技能レベル 4 以上に達した。(各フェーズ終了時に調査)
(7) 持続発展性	①ラオスにおける洋裁技術の発展、普及 現地での高度な洋裁技術の持続性を考え、フォローアップとしてこの先も 1 年に 1 回ほどのペースでラオス人民共和国に赴くと共に、フェアトレードの継続により高度な洋裁技術の定着を図る。学校運営に関しては、県立の職業訓練校のため必要な費用は県から支払われているが、生徒からの授業料の他にフェアトレードの仕立代の 3 割を学校の維持管理費に充当し運営資金を担保する。事務局長である Mr. Houmpheng Meckhasinh、職業訓練校校長や洋裁科の教員と連絡を取り、洋裁科の生徒数や地元での作品の販売状況の聞き取りのほか、フェアトレード作品として出来上がった作品の出来栄を通してプロジェクトの成果・発展性を確認する。なお、2007 年から 2010 年にラオスで事業を行った際の訓練生が現在洋裁の先生となりセポン市で指導していることを考えると、今回の受講者も前事業期の生徒と協力して事業を持続、さらに技術の普及できる可能性がある。 ②日本での話題性、認知度の増進 前述のセポン市のマイノリティ山岳民族の女性が作り出す手工芸品を日本で販売できる作品に発展させることで彼女達のエンパワメントを強化し、また訓練生が作成した「Made in Xepon」商品を日本でフェアトレード作品として販売することで話題性を図り、日本においても事業の認知度を高め資金を募り、事業の発展へ繋げる。

(ページ番号標記の上、ここでページを区切ってください)